



NST No.12

編集/阿部 裕子 岡本 智子
 香取 幸夫 近藤 健男
 斉藤 真紀子 仙石 美枝子
 日野 美代子 舟山 裕士
 宮田 剛
 発行/東北大学病院NST広報係
 TEL.7120 FAX.7147 TUH

NUTRITION SUPPORT TEAM NUTRITION SUPPORT TEAM NUTRITION SUPPORT TEAM

NST研修会<仙台NST学術講演会>

特別講演「生活の中に口腔ケアを ~感覚が集中した口という臓器を見直す~」 東北大学大学院歯学系研究科 予防歯科学 助教授 岩倉 政城先生



歯周病のチェック

さる11月22日、東北大学NSTの3周年記念講演として大塚製薬工場との共催で仙台NST学術講演会を開催しました。特別講演には今トピックの一つである口腔ケアの話をも歯学部の岩倉助教授にお願いしました。岩倉先生はその特徴的な弁舌と常なる学部生向けの講義のごとく講堂内を動き回るため、会場は独特な雰囲気になりました。

講演ではまず口という臓器の特徴から述べられました。口は全身のどの部分(例えば指先)よりも感覚が鋭い、知覚の敏感な部分であるという話から口火を切られ、口内の感覚を重視したケアの方法について熱心に語られました。またある地方において予防歯科のケアを実践された時のご苦労は印象的でした。口腔内は雑菌の巣窟であり、唾液が不足しがちな高齢者は容易に歯肉に炎症を来しやすい。口腔感染が血流を介して循環器系など遠隔臓器の炎症を引き起こすことがあり、高齢者は日常的に口腔ケアを実践する必要があることを医師初めNSTスタッフも念頭に置くべきである。



口腔ケアを
たぐいという臓器を見直す



文責:消化器内科非常勤講師 朝倉 徹

下痢と便秘(便通異常)

下痢の原因は大きく感染性と非感染性に分けられます。下痢の治療においては一般に各種止痢剤の投与が行われますが、特に感染性の下痢は

各種毒素や病原微生物を体外へ排出する生体防御反応であることが多いため、止痢剤の安易な投与は好ましくありません。

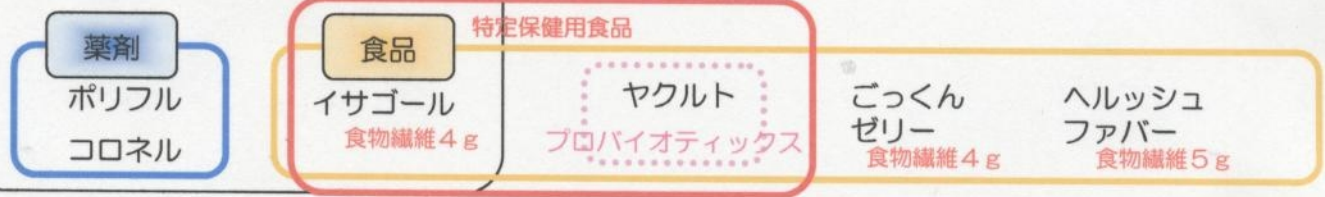
一方、便秘の多くは、大腸の蠕動低下(弛緩性便秘)や大腸の一部の蠕動が強くなりすぎること(痙攣性便秘)により起こります。弛緩性便秘ではセンナ等の刺激性下剤が有効ですが、痙攣性便秘では逆に腹痛などの症状を悪化させることがあります。

こうした下痢や便秘の治療においてもっとも重要なことは、便を丁度よい硬さとする(便性の改善)ですが、そのためには食物繊維の摂取とプロバイオティックスが有効です。食物繊維は消化吸収を受けずそのまま便の材料となるので、十分量の摂取(20-25g/日)により適度な量と硬さを持った排便を得ることができます。また、食物繊維は大腸内の乳酸菌やビフィズス菌、酪酸菌などの有用菌により分解されて乳酸や酪酸などの有機酸を生じ、腸内pHを酸性に傾けて悪玉菌の増殖を抑えるという作用があります。特に酪酸は大腸上皮細胞のエネルギー源となり、その機能を正常化させ、また腸蠕動を促進することが知られており、便性の改善に大きく役立ちます。これらの有用菌を経口的に摂取できるようにした製剤をプロバイオティックスといい、処方できる製剤としてはピオスリー、ミヤBM等があります。あわせてオリゴ糖など有用菌の増殖因子を摂取すること(プレバイオティックスという)によりプロバイオティックスの効果を高めることができます。



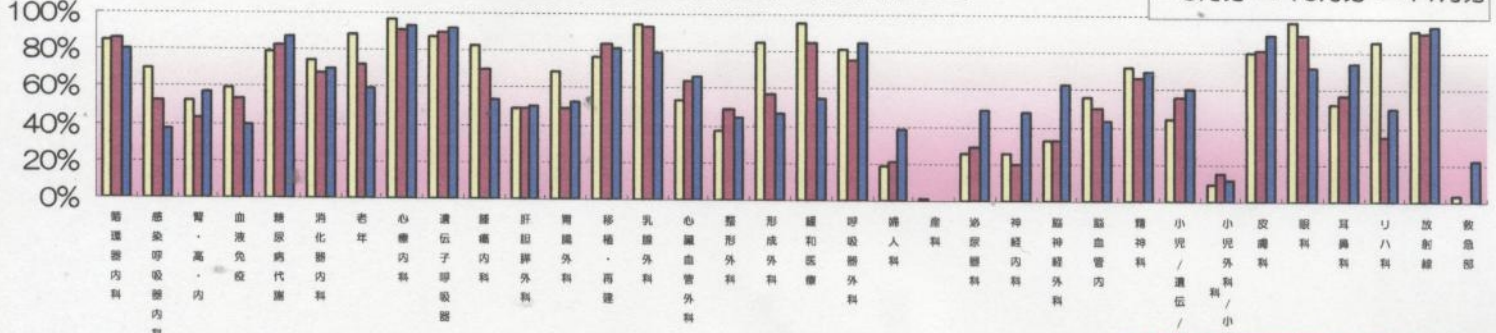
文責:胃腸外科 高橋 賢一

水分を含んでゲル化し便を形つくる



※薬剤は薬剤部へ、食品は栄養管理へ問い合わせ下さい。

栄養管理実施加算算定率(診療科ごと)



※経営管理課算定資料より